すてっぷ
とよなか男女共同参画推進センター

配布期限2024.2.12

私たちからあなたへ 映画は未来へのメッセージ

三人展

平和・人権 山本洋子

フェミニズム 山上千恵子

セクシュアリティ 浜野佐知

2024年 2月11日(日)、12日(月・休)
会場／とよなか男女共同参画推進センター
すてっぷホール　定員 154名

チケット(当日券のみ、入替制)
各プログラム　一般 1,500円　学生 1,000円
シンポジウム・交流会　参加費無料

2月11日(日)

11:00 開場
11:20〜13:30上映＆監督トーク

矢臼別物語
北の大地からのメッセージ

制作／「矢臼別物語」制作支援の会
独立名画保存会
監督／山本洋子　(88分/ 2021年)

海道根室原野の一角、矢臼別にある陸上自衛隊矢臼別演習場には、二か所の民有地があり、人々が普通に暮らし、全国から人々がやってきては、交流を深める。

何故、そんなことが出来るのか？
ここには、憲法にある権利だと買収を拒否し、住み続けた2軒の農家と支え続けた地元の人々、全国の人々の連帯がある。この地での60年以上にわたる厳しいけれど、熱く、深く、楽しい日々とは？

●監督コメント

初めて、北海道矢臼別の地を訪れてから、40数年が経つ。撮影をはじめて6年。自衛隊演習場反対という、戦争か平和かという究極の問題と向き合いながら、ここには、米海兵隊、自衛隊の監視を続ける厳しい抗議の風、歌とおどり、文化を楽しむ風、誰もを受け入れ抱擁するたおやかな風がそよいでいる。
この地にはどうしてこんな風が吹いているのか？平和を希求しなければいけない今、この地から、たくさんのヒントをつかんでほしい。

2月11日(日)

14:30 開場
14:50〜16:50 上映＆監督トーク

山川菊栄の思想と活動
姉妹よ、まずかく疑うことを習え

企画／山川菊栄記念会
制作／ワーク・イン〈女たちの歴史プロジェクト〉
構成・監督／山上千恵子　(76分/ 2011年)

100年ほど前、女性が男達によって作られた法や制度に抑圧される時代に「なぜ女は生きにくいのか?」を原点に女性の人権のために闘い続けた山川菊栄の思想と活動の軌跡を菊栄とともに歩んだ女性たち、研究者、家族たちのインタビューで辿り、今を生きる私たちにつなぐドキュメンタリー。菊栄は今も呼び掛ける、「私達はいつ自身の魂を形成する権利を男たちの手に委ねたのか…私たちの若き姉妹よ、まずかく疑うことを習へ」と。

●監督コメント

なぜ女性は生きづらいのか…この問いから始まった山川菊栄の女性解放史を今につなぐためにー。

2月12日(月・休)

10:00 開場
10:20〜13:00 上映＆監督トーク

雪子さんの足音

制作／株式会社旦々舎
助成／文化庁文化芸術振興費補助金
(映画創造活動支援事業)
協力／静岡市
監督／浜野佐知　(112分/ 2019年)

地方都市に出張してきた公務員の湯佐薫は、20年前に下宿した月光荘の大家、川島雪子が熱中症で孤独死したことを知る。大学3年の夏、大家の雪子さんと間借り人の小野田さんと、二人の女性のあまりに過剰な好意と親切に窒息しそうになった日々が蘇る。

彼女たちの内奥に秘めた欲望とエネルギーに触れ、底知れない恐怖を覚えて逃げ出してしまった。だけど、自分は人生の大事なものを月光荘に置いてきたのではないだろうか？

●監督コメント

「私、とんでもないバーサンが演りたいの」吉行和子さんから届いた一通のメールから『雪子さんの足音』は始まった。吉行さんの望むとんでもないバーサンとは、今まで「老女」と一括りにされていたお婆さん像を打ち壊すことではないのか？

「欲望を持つ老女」

何歳になっても枯れることのない女のエロス。今、この社会をひっくり返す、新しい老女像。老若男女の垣根を越えて、観ていただければうれしいです。

監督と語ろう！交流会

参加費無料

先着40人

2月11日（日）
17:20〜18:30
会場／すてっぷ視聴覚室

世代を繋ぐシンポジウム

映画は未来へのメッセージ

参加費無料

2月12日（月・休） 14:00開場　14:20〜17:30
会場／すてっぷホール

登壇者

映画監督
山本洋子
1974年『大須事件』で監督デビュー。
以降、『夏雲ー逝きしものへのレクイエムー』、『軍隊をすてた国』、『明日へ紡ぎつづけて』など記録映画の監督の傍ら「わが心の朝」、「ボクちゃんの戦場」、「金色のクジラ」などの脚本を書く。独立プロ名画保存会代表。

ドキュメンタリー映画監督
山上千恵子
1980年代から女性の歴史・文化・活動の記録を女性の視点から作りはじめる。
2001年、『ディアターリ』ソウル国際女性映画祭・アジアンショートコンペティション観客賞受賞。『山川菊栄の思想と活動—姉妹よ、まずかく疑うことを習え』、『30年のシスターフッド』など海外でも上映される。

映画監督
浜野佐知
1971年、ピンク映画で監督デビュー。85年映画制作会社「旦々舎」を設立。以後、監督・プロデューサーを兼任し、性を女性の視点で撮ることをテーマに300本を超える作品を発表。『第七官界彷徨ー尾崎翠を探して』、『百合祭』、『雪子さんの足音』など、海外でも高く評価されている。2000年「第4回女性文化賞」受賞。著者に「女が映画を作るとき」(2005年・平凡社新書)、「女になれない職業」(2022年・ころから)。

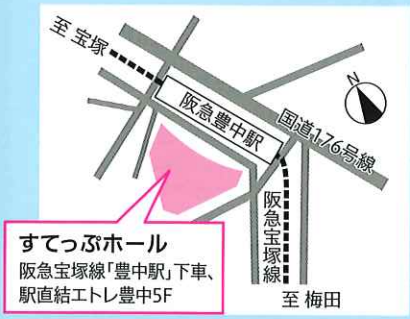
映画パブリシスト
岸野令子
有限会社キノ・キネマ代表。関西を拠点に、映画の宣伝・配給に携わる。
特に韓国映画との関わりが深く、釜山国際映画祭には毎年参加。韓国の女性監督や女性を描いた作品に目を向けている。共同配給作品に『金子文子と朴烈』、『チャンシルさんには福が多いね』、『猫たちのアパートメント』。著書に、世界の映画祭を巡る30年の記録「ニチボーとケンチャナヨー私流・映画との出会い方2」(せせらぎ出版)、夏目深雪著「韓国女性映画 わたしたちの物語」(河出書房新社)に執筆、など。

映画研究者・映像作家
園山水郷
パリ第一大学大学院修士課程修了。主な研究テーマは性を描く映画、女性監督による映画、映画のなかで描かれる女性について、など。
パリのアヴァンギャルドを代表する作品、モーリス・ルメートルの『映画はもう始まったか？』、『日仏版　神への道』DVD版字幕翻訳を担当。
著書に「シネマ・ミリタンと女性映像作家」、「性と検閲ー日本とフランスの映画検閲と女性監督の性表現」など。

社会学・ジェンダー研究
坂本知壽子
立命館大学授業担当講師。韓国とフィリピンで元日本軍「慰安婦」生存女性たちの聞き取り調査を行う。著書に「日本の娘たちの経験の同時代性と今日性」『映画で読み解く東アジア』、「Re-thinking the Japanese Military "Comfort Women" in the Philippines through the Narrative」『Junctions Between Filipinos And Japanese-Transborder Insights And Reminiscences』、「『尊厳』概念から見直した日本軍『慰安婦』問題」『女性歴史文化研究所紀要』第14号など。

★主催／一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団
株式会社旦々舎
tantan-s@f4.dion.ne.jp　http://tantansha.main.jp

★問合せ／TEL 06-6844-9773
（すてっぷ講座担当　9:00〜17:30　水曜休館）

★一時保育／先着10人（1歳〜小学3年生）1人につき各作品、イベントごと550円（税込）
申し込み締め切り 2月4日（日）　申込先 tantan-s@f4.dion.ne.jp

★すてっぷホール／大阪府豊中市玉井町1-1-1-501 エトレ豊中5F